

第6章 街の音が聞こえる

私たちが暮らす東京の街は刻々と変化しつづけている。破壊と形成、誕生と死滅。再生をくり返し成長しつづけている。日々の営みの中で見落としてしまいそうなほど小さな変化もある。日常を放れ上へ上へ出来るだけ上へ昇ってみる。混沌とした360°の街を独自の視点で切り撮った時、無意識の記憶が甦り街の音が聞こえてくる。

東京小片

[今どこ?]	関口まり子
[破壊から再生へ]	関口まり子
[ここはどこ細道じゃ]	関口まり子
[夜の工事現場]	関口まり子
[路傍の雑草]	タダジュンコ
[朝霧の交差点]	タダジュンコ
[タワーマンションⅠ]	タダジュンコ
[タワーマンションⅡ]	タダジュンコ
[多角形の空]	宮 幸子
[光を浴びる]	宮 幸子
[バベルの塔]	宮 幸子
[空をキャンパスに]	宮 幸子

今どこ？

雨上がりの公園のベンチ。待ち合わせた相手の姿はない。切なさとかすかな後悔をかき消すように、スマホがピポパと鳴る。



破壊から再生へ

古いビルの壁を巨大な鉄の爪が轟音を立てながら削り取っていく。もうもうと立つ煙。魂を鎮めるかのように水が撒かれる。



ここはどこの細道じゃ

高い塀で仕切られた細い通路を歩く人には、向こう側の音は聞こえても姿は見えない。ある日突然、新しい世界が見えてくる。



夜の工事現場

真冬の午後6時。工事現場に残っていた人影が消えた。飲食店やオフィスの窓の明かりが、無音の重機を照らす。



路傍の雑草

いつの間にかあったはずの家が更地となっていた。主を失った庭の花が、雑草の中に混ざり昨年と同様に可憐な花をつけていた。



朝靄の交差点

ある早朝の散歩で見馴れたいつもの交差点を通る。深夜まで降りつづけた雨が上がり、もわっとした水蒸気が一面に広がり幻想的に濃霧発生中。なんだかワクワクする。



タワーマンション |

はけ（国分寺崖線）上のお気に入りの階段。ここから新しい国分寺の顔が見える。国分寺の空に突き出た双子ビルまだまだ成長中。



タワーマンションⅡ

緑と湧水と歴史のまち国分寺。JR中央線、特快の停まるまち国分寺。駅から直結のツインタワーマンション。国分寺に新しいキャッチコピーが増える。



多角形の空

京王線府中駅南口。工事が止み、フェンスが取り除かれ、新しいビルが、今まで見たことがなかった空の形を出現させる。



光を浴びる

空には光もある。長いエスカレーターを上った先に陽の光が出迎えてくれた。東京駅1番線ホーム、丸の内に一番近いホーム。



バベルの塔

上野で「Study of BABEL」を鑑賞後移動。街の音が遮断された六本木のビル52階で、バベルの塔から見上げた空を想像する。



空をキャンパスに

窓の格子がリズムを刻む。見えるビルによって空がデザインされていく。
高層ビルが立ち並ぶ都会ならではの楽しみ方。

